

編集後記

OH WONDERFUL!と思わず口に出てしまうバイルートハイウェイ、新しいタイプのアミューズメントいっぱい、眺望いっぱいのシーサイドドライブウェイ、都市の交通の流れをよりダイナミックに、かつスムーズに変えてしまう待望のスーパーバイパス。

関西国際空港から神戸沖まで、海沿いの56kmを1時間足らずで一走り、左手に大阪湾と淡路島そして明石大橋のタワーを見て、右手には大阪平野、大阪都心、六甲山系を見て、もちろんフロントガラス越しには、シェイプアップした曲線美と構造美、アップダウンをまじえて、真紅のビッグワン港大橋と白鳥が優雅な翼を上げたような3つの斜張橋、そして、扇状の大阪湾沿岸にいっせいに打ち寄せる白いさざ波のような7つのアーチ橋がゲートとなって歓迎してくれる。時折、かもめがおともして空に舞い、遙か彼方には国際線の飛行機が浮いている。

夜ともなれば、海岸線にナトリウム灯が光の軌跡を描き、随所にライトアップされた長大橋は、ひのき舞台に立ったミスコンテストのビューティ7、どれがNo.1の王冠に輝いても不思議でない。設計図の描かれた紙から、鉄とコンクリートという素朴な材料がここまで素敵に変身した。

見事に出来上がった大プロジェクトの湾岸線、個々の高度技術を駆使して、多くの開発、研究の成果を残したといえるが、なんとといっても培ってきたトータルとして事業推進する連携プレーの総合技術力が、あざやかに開花、結実したといえる。

ただ、いつまでも喜びに浸っている訳にはいかない。土木技術者に夢を与える明日の技術の活用を図るために、計画を含めて都市土木技術の発揮する場を、そして、都市機能整備に貢献できるよう蓄積したエネルギーを向けていかなければならない。

今号では、特定論文として湾岸線に関する2編と旧梅田入路撤去に伴う実構造物に関する貴重な実験のまとめを掲載しています。なお、今号から過去1年間の他誌への発表をリストアップすることとしましたので、次号での掲載を目指して奮って論文発表して下さい。

最後になりましたが、特別論文を執筆して頂きました京都大学・柴田徹教授、巻頭言の鹿受常任参与、そして、編集委員長の近藤審議役をはじめ論文発表者ならびに編集委員、幹事および管理技術センターの関係の皆様へ厚く御礼申し上げます。

(富田 穰 記)